

道の駅花壇整備に伴うモニタリング調査

Remote Monitoring of Flower Bed in Roadside Station

鎌倉 啓伍*
(KAMAKURA Keigo)

那須 琴実**
(NASU Kotomi)

I. はじめに

東京大学の学生サークルである東大むら塾と、福島大学農林サークル福桃は、福島県飯舘村を活動拠点の一つとしている。両団体は、「いいたて村の道の駅までい館」裏側の空き地を花壇として整備する計画の実施に向け、協働している。本計画は、道の駅を訪れる人々が楽しめる空間づくりを通して、村の顔である道の駅の魅力を高める一助となることを目指している。また、両団体の飯舘村内における認知度を高め、活動の輪を広げるきっかけにしたい。

II. 設備に関する方針

木製のプランター（認定 NPO 法人ふくしま再生の会より廃材の提供ならびに丸鋸の貸し出しと指導をお願いし、手作りする予定）、廃タイヤ（合同会社 MARBLiNG が開催したイベントで村民の方々がペイントしたもの）を当該スペースに設置後、土・堆肥を投入し、花を植える。土は、除去土壌の仮置き場に使っていた遮蔽用の土嚢を再利用し、堆肥は村の農家さんに提供いただく予定である。

III. 植える花に関する方針

サルビアとホーリーバジルの2種類を予定している。サルビアは、園芸初心者でも育てやすく、かつ夏の花壇に適した花として村の農家さんから勧められたため、栽培することにした。ホーリーバジルは香りが良く、様々な料理に活用でき、コスメ商品にもなる、魅力的な植物である。もともとは飯舘村内に事務所を有する株式会社サガデザインシーズが飯舘村の新しい特産品にすべくホーリーバジルに着目し、昨年夏より「いいたて結い農園」とともに試験栽培や商品開発に取り組まれていた。同社からの提案を受け、共同で栽培を行うこととした。当該スペースは「ふかや風の子広場」にも面しており、休日には村内外から多くの子供連れが訪れるため、ホーリー

バジルを植えれば、特に母親世代に向けた良い PR となることが期待できる。

IV. 重点（1）リモートモニタリング

当該スペースは、強風が吹きやすく日陰の立地のため、花壇としては好ましくない条件下にあることが指摘されており、整備にあたっては、気象条件のデータを収集したうえで定植の時期などを決定するのが望ましい。そこで、花壇の脇に雨量計、日射計などを設置し、リモートモニタリングを行いたい。データは次年度以降の花壇整備の活動の参考とするほか、**農村情報ネットワーク**の構築の事例として、得られた経験を両団体の他の拠点での活動などに活かしたい。

V. 重点（2）つながりの創出

本計画の構想にあたっては、多くの方々と連絡をとり、相談に応じていただいている。この背景には、資材の多くを現地で調達し、経費を節約するねらいもあるが、それ以上に強いのは、花壇を通して様々なつながりを創出したいという思いだ。飯舘村では、行政区ごとのまとまりはあるものの、村としての一体性に課題があるというお話を伺ったことがある。それを受け、両団体の学生や両団体が個々にお世話になっている方々はもちろんのこと、これまで関わりのなかった村内外の方々も含め、人々が集える場として花壇を機能させたいと考えた。こうした人と人とのつながりも、**農村情報ネットワーク**の重要な構成要素であり、新たな活動（両団体主体のものにとどまらない）が生まれるきっかけとなるはずだ。

VI. 今後の予定

村の農家さんと相談しつつ、4月以降ポットで育苗を開始し、6月頃に定植する予定である。7月末から9月にかけて花が咲く見込みである。

* 東京大学文学部スラヴ語スラヴ文学専修課程2年，東大むら塾飯舘村部部长

** 福島大学農学群食農学類農業経営学コース2年，福島大学農林サークル福桃代表

キーワード 農村情報ネットワーク

リモートモニタリング，つながり

道の駅までい館の花壇整備

リモート
モニタリング

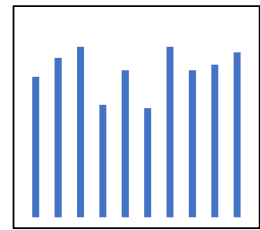
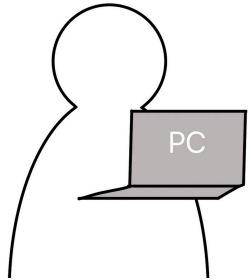
つながりの
創出

気象データの収集

雨量計、日射計等の設置

データ分析

飯舘村⇄東京



定植時期の決定等

主体

東京大学
福島大学

気象データの提供

連携

サガデザイン

ホーリーバジルに
関する情報提供

飯舘村住民

花壇資材の提供

- ・遮蔽土・堆肥
- ・木材・廃タイヤなど

道の駅花壇整備に伴うモニタリング調査
鎌倉啓伍（東京大学文学部2年）
那須琴実（福島大学食農学類2年）

花壇を通じた人々の交流

